

施設の卒園生に スーツ贈り祝う

伊勢崎「伊達直人」も講演



卒業生らを前に自身の子ども時代の経験などについて話す河村正剛さん。伊勢崎市昭和町。

県内の児童養護施設などから社会に巣立つ高校生を応援しようと、伊勢崎ロータリークラブ（伊勢崎市昭和町）が28日、該当する27人全員にスーツ一式を贈った。漫画「タイガーマスク」の主人公・伊達直人の名で子どもたちにランドセルを贈ってきたことを明かした前橋市の会社員河村正剛さん（49）も講演し、エールを送った。

スーツのプレゼントは今年で3回目。同クラブに所属し、お好み焼き専門店「KANSAI」16店舗の代表取締役を務める山崎健一さん（53）が企画した。山崎さんは、河村さんが匿名で行った寄付をニュースで知ったことをきっかけに、5年ほど前から自身の経営する店の食事券を児童養護する子どもたちにプレゼントしている。子どもたちを店に招くと、外食することに慣れておらず戸惑っていた。「子どもは自分の環境を変えられない。ロータリークラブでも支援をした」と考え、スーツの寄贈を思い立った。

必要な費用数十万円は同クラブの会員からの寄付金で賄われる。寄付金はスーツの寄贈を始めてから以前の2倍ほどの100万円以上が集まるようになった。28日に行われた「卒園生を送る会」では、県内の児童養育自立支援ホームで生活し、この春高校を卒業する

生徒ら一人ひとりにスーツが手渡された。新しいスーツに着替えた県立高校3年の女子生徒（18）は「高校の制服と違って新鮮に感じる。入社式の時に着たい」と笑顔を見せた。

児童養護施設「希望館八幡の家」の須田啓美施設長（67）は「子どもたちは新生活の費用をためるために一生懸命アルバイトをしている。スーツを頂けるのは助かります」と話す。

会の最後には河村さんが講演した。自身が社会に出てからの経験を話し「困ったときは施設に相談して欲しいし、社会にもこうして応援してくれる人がいる。それを胸に、がんばって」と話した。（篠原あゆみ）

施設巣立つ高校生にエール

「支援者信じ新生活を」

漫画の主人公を名乗り、児童養護施設に贈り物を届ける「タイガーマスク運動」の先駆けとなった前橋市の会社員、河村正剛さんが28日、伊勢崎市内の結婚式場で講演した。県内の児童養護施設など9施設を今春巣立つ高校生らに「支援してくれる人がいるこ

タイガーマスク運動・河村さん



とを信じて生活してほしい」とエールを送った。

河村さんは少子化の半面、家庭環境に恵まれない子どもが自立した状況に「世の中を愛するため、メッセージを送ろうと思う」と匿名で活動を始めた経緯を紹介。運動の広がりを受け、さらなる支援を訴えるため昨年12月、実名を公表したことを説明した。

その上で「社会に出て開いた。生徒20人は受け取ったスーツに着替えて会員らと会食した後、河村さんの言葉に耳を傾けた。

群馬テレビで放映予定です。決まりましたら、後日連絡致します。